

新潟医療センターニュース

第48号

発行 新潟県厚生連労働組合
新潟県厚生連労働組合
発行責任者 貴士
富井 貴士

不整脈とカテーテル治療

医療講話



循環器内科医長 杉浦 広隆

脳梗塞や心筋梗塞などの突然死を引き起こす原因ともなる不整脈。従来は薬による観察治療が主でしたが、今では不整脈の源を取り除く療法が登場してきました。当院でこの治療を行う杉浦先生にお話を伺いましょう。

心臓の電気の流れとその異常

心臓は脳をはじめとする全身

ていきます。心臓にも、いくつかの部屋と、それを規則正しく順番に働かせる指揮系統が備わっております。この指揮系統が刺激伝導系と呼ばれる「電気の流れ」です。心臓の右上の部屋（右心房）には洞結節と呼ばれる「発電所」があり、そこから微弱な電気が発生します。次に刺激伝導路とよばれる「電線」を電気が流れて心臓の各部屋に指令が伝わっていきます。この

仕組みがあることで、心臓のそれぞれの部屋が規則正しく働き、「ドクン、ドクン」と体に必要な血液を送り続けることができるのです。この「電気の流れ」の異常が不整脈で、経過観察ですむものから慎重な管理を要するものまであります。

不整脈の治療

脈が遅くなる不整脈ではペースメーカーという機械による治療が行われます。一方、脈が速くなる不整脈では薬物治療やカテーテル治療が行われます。「ドキドキする」といった症状を来す不整脈の多くは脈が速くなる不整脈ですが、最近の研究により、この原因は心臓のある一部分にあることが分かってきました。

カテーテル治療（カテーテルアブレーション）は、カテーテルという管を心臓内に入れて、不整脈の原因となっている部分に電気を通して焼灼する治療法です。カテーテル治療では不整脈の根治が得られることも多く、不整脈の薬を中止・減量できる可能性が高いです。

安全で根治の高いシステムを用いて

当院では、通常のカテーテル診断装置に加え、三次元マッピングシステム（CARTO3）、

虚血性心疾患シンポジウム in 新潟

「第十四回」ロキウム 虚血性心疾患 in 新潟」が九月七日に新潟市内で開催されました。当院を含む心臓血管領域の診療に力を入れている市内の複数の専門施設が参加しました。心筋梗塞など虚血性心疾患の心臓カテーテル検査や心電図などが多数紹介され、注意するポイントや診断のコツなど知識の共有を目的としていました。



パネリストとして参加した長谷川聡子さん（看護師）

「また毎回違ったテーマのシンポジウムが企画され、各施設のシステムや取り組み方なども紹介されます。今回は院内急変時対応の体制について多施設間で意見交換が行われました。この会には県内の医師だけでなく看護師や心臓疾患に関わる多職種スタッフが多数出席しています。当院はパネリストとして参加するなど第一回から積極的に関わっており、日々の診療に役立つよう努力しています。（記事/斉藤）

イリゲーションカテーテルといった最新のシステムを導入し安全で根治性の高い治療を提供しております。また、常勤医師にくわえ外部医師（新潟大学や群馬県立心臓血管センター）の協力を受けながら手術にあたります。入院期間は二〜五日間程度で、手術中は麻酔薬で眠っていただくなど、患者さんの負担軽減にも努めております。カ

テーテル治療の対象となる不整脈疾患は、主に発作性上室性頻拍、WPW症候群、心房粗動、心房頻拍、心室頻拍、心房細動、頻発性の期外収縮です。不整脈の分野でもいろいろな治療選択肢がでてきましたが、患者さんの状態に応じた選択が重要ですので、かかりつけの先生や当院循環器内科を受診してご相談ください。



病院探索

消防訓練編

尊い命を守るため
繰り返される大切な訓練

新潟医療センターと老建こばり園で毎年二回消防訓練を行っています。これは病院の患者さんや老健施設の利用者さんの尊い生命を守るために非常に大切な訓練となります。

特に入院患者さんは自身の緊急避難が難しい方が多く、介



参加者みんなの ファインプレー

八月二十五日阿賀野川河川敷公園で市内病院対抗野球大会が開催されました。新潟市内の全二十一チームが集まりトーナメント形式で行われました。今年は十年に一度の幹事病院ということで、朝六時より部員が集合し会場設営を行いました。前日に降った雨の影響でグラウンド

助が必要な避難、車椅子による避難、あるいは担架による搬送など状態により避難方法が異なります。火災発生を未然に防止するため、常に火気の取り扱いには十分な注意を払うことが大切です。また、被害を最小限に食い止めるため、定期的な訓練と警報装置や消火設備、避難設備などの消防設備の維持管理が重要となっています。

あつてはなりません。万が一火災が発生した場合には、患者さんや利用者さんは職員の指示に従って速やかな避難をお願い致します。

八月二十九日には勤務者が最も少ない夜間の出火を想定して訓練を実施しました。これからも訓練時には非常放送を行うなど皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

防火管理者 畑中 将彦

整備に時間がかかり、第一試合が始まる頃には全員が汗だくとなっていました。

その会場設営作業が丁度良いアップになったのか、初戦の強豪河渡病院との試合では、見事なチームプレイで勝利しました。続く二試合目では、またまた強豪の済生会新潟第二病院との試合でした。朝からの疲れが出たのか、初回に大量失点を許し負けてしまいました。

優勝には手が届きませんでした。本大会では全員の活躍があつたと思います。目立たないプレイですがランナーの進塁を許さないボールカバーや、黄色い声援と冷たいドリנקを調達してくれたマネージャーの支援、大会に向けて手にマメができるほど素振りをした選手、ベンチで最高の雰囲気作りをしてくれた部員の皆、選手と同様に朝から大会運営をして下さった事務局の皆様等、たくさんのファインプレーがあつた大会だったと思います。

皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

作業療法士 中嶋 優太

研修医紹介



平田 哲大

職場紹介

C2病棟

安全で信頼のある看護を

今年の四月に病棟編成が行われ、心臓血管外科、外科、消化器内科を中心とした病棟になりました。スタッフは看護師二十四名、補助員三名の二十七名でスタッフの半分が二十代の若さいっぱい、かわいさいっぱい、明るい病棟となっています。新人看護師二名も看護師だけでなく社会人としても成長しています。

四月は病棟編成したばかりで慣れない中での業務であったが、患者さんにご迷惑をお掛けしたかもしれません。現在では、三科の勉強会を実施し、若いスタッフはベテランスタッフの知識や技術を習得し、業務に慣れ余裕が出てきました。患者さんの言葉

もゆつくり聞くことが出来るようになっていきます。

毎朝、医師とともに患者さん一人ひとりのカンファレンスを行い、安全で信頼のある看護を提供しようと日々心掛けています。今後もスタッフ一同信頼され、満足いただける看護を提供していきたいと思っています。



はじめまして、研修医一年目の平田哲大と申します。毎日焦り、悩みながらも、医療を学んでいる最中です。

臨床研修中の目標は二つあります。一つ目は、毎日どんな事でも良いので一つ進歩することです。例えば、静脈確保などの基本的な手技のコツを掴むとか、薬の使い方を一つでも覚えろといったようにです。自分の使える引き出しを増やし、早くお役に立てるようになりたいと

思っています。二つ目は将来の目標を明確にすることです。次の節目である研修終了時にどんな科を選ぶか、その後どんな医師になりたいのか、いまだに具体的なことは決められずにいますが、長期的な視点を持ってゆつくり考えていきたいと思えます。

以上の目標を達成できるように、日々努力をしていきますので、これからもどうかよろしくお願いたします。

編集委員 酒井 妙子 金子 桂子 齋藤 修 宮村 誠 横山 佐和子
小柳 良明 阿部 真由美 吉川 博子 荻澤 仁 大橋 弘弘